

# 小学生・作文 愛媛県砂防ボランティア協会会長賞

## 「今回の西日本ごう雨について」

東温市立川上小学校 3年 <sup>まつした</sup>松下 <sup>はると</sup>春人

七月六日金曜日に、これまでにけいけんしたことのない大雨が西日本にふってきた。その大雨で山がくずれ、道路がこわれ、家や車が流された。人も流され、この大雨で何百人もの命がうばわれた。

その時ぼくは、家でニュースをみていた。家のやねまで、雨があってびっくりした。雨がこんなにふるなんて思ってなかった。

ぼくのおばあちゃんも昔大雨をけいけんしたことがあった。三間の家にすんでいた時大雨で床下まで水がきていた。きけんだったからとなりの家にひなんさせてもらったらしい。おばあちゃんは、大へんだとあせっていたようだった。

こうした災害がおこって時、どうすればいいだろうか。ぼくはテレビやラジオを見て聞いて新じょうほうを聞いて、ひなんするかどうか見て指定されているひなん場所に行く。ひなん場所を家族みんなで話あいをしてきめておく。近所の人たちもぶじかどうにかかくにんする。

今回の災害でぼくにでもできることがないか考えたけっかいまひつようとしているものをおくろうと思った。ぼくが小さいころきていた服や、サンダル、リュックを、ぼくが所ぞくしているサッカークラブで集めてげん地までもっていってもらった。

その他ぞうきんにできそうなタオルをひつようだということが分かり、おかさんの友だちにおねがいして持っていってもらった。

一人でも多くの人をやくにたってよかったと思った。

一人一人きょうりよくしあいたすけあうのが大事だと思った。ボランティアにいけたらいきたいと思った。

次災害がおこったらぼくは、小学校へいき家族がぶじかかくにんする。

ぼくのかんそうは災害がこんなにこわいなんて思っていなかった。災害なんかおこってほしくないけど自ぜん災害だからしかたがないと思った。

もう人の命がうばわれないうちに、まず自分の命を自分でまもることが大事だと思った。